

NO! リニア

No. 174

2024年7月6日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス↓



工事の遅れ、どんどん明らかに 日本の「サグラダ・ファミリア」か

本紙No.171で、リニアの山梨県駅（仮称）、長野県飯田市の座光寺高架橋の完成が共に2031年になる見通しを会社が公表したことを明らかにしました。

これに続き会社は、岐阜県恵那市の「第二大井トンネル」などの工事完了が、2年遅れの2029年度中になる見通しと発表しました。また、飯田市に建設される「長野県駅（仮称）」についても、5年9ヶ月遅れの2031年12月末になると公表しました。遅れの要因は、用地取得手続きの長期化や埋蔵文化財の調査が長引いたとされています。

更に、リニアを取材し続けているジャーナリストによると、各地で工事の遅れが相次いでいると述べています。山梨県駅は未だに工事未契約です。神奈川県は昨年に工事契約したものの、今年に着工しても完成は2035年です。神奈川県「第2首都圏トンネル」（約3.6km）は未着工で、用地買収の対象者850人中、2割の住民が応じていません。

現時点で用地取得ができていないことは致命的です。このような状況においても、会社は静岡県悪者論を続けているのです。このような論調はもはや通用しません。

ジャーナリストによると、「各地のリニア工区の工事進捗率は試算では15%程度。2014年の事業認可から10年経過しているので、今のペースのままなら単純計算で開業までには約60年かかる。まるで『日本のサグラダ・ファミリア』だ」（※バルセロナのサグラダ・ファミリア同様にいつまでたっても完成しないことの比喻）と述べています。

直ちにリニアから撤退しないと、損害はどんどん拡大する一方です。会社が今すぐ出すべき見解は「リニアから撤退します」の一言です。